

# ガネフォ60周年を記念して

玄 洋 社

浦 辺 登

毎月、私のところにオピニオン雑誌の「月刊日本」が送られてくる。この「月刊日本」の2023年8月号に元駐日インドネシア大使のユスロン・イーザ・マヘンドラ氏のインタビュー記事が掲載された。「日本と協力してアジアの平和と安定に貢献する」との小見出しがついている。

このユスロン氏のインタビュー記事が掲載されたのも、日本とインドネシアとの国交樹立65周年、日本・ASEAN友好協力50周年にあたり、天皇皇后両陛下がインドネシアを訪問されたからだった。実に興味深く、このインタビュー記事を読み進んだが、最終の箇所<sup>とうとう</sup>でユスロン氏が新興国競技大会(GANEFO)に言及されていて、驚いた。そして、嬉しかった。ユスロン氏とは、ある会合で面識があり、その時、滔滔と新興国スポーツ大会・ガネフォの意義について語ったからだった。やはり、ユスロン氏はガネフォを日本とインドネシアとの重要な外交政策の一つとして認識していたのだ。

天皇皇后両陛下がインドネシアを訪問された際、マスコミは陛下が上皇陛下の時代と同じように先の大戦における反省と謝罪の言葉を期待していたようだった。しかし、インドネシアのジョコ大統領は機先を制し、陛下から両国の未来志向のお言葉を引き出すようにしたのだった。このことは、ユスロン氏のインタビューにも如実に出ているが、過去のロームシャ、慰安婦、日本軍についての問題よりも、今後の両国がいかに協力してアジアの平和と安定に貢献しなければならないかが重要であるとの意思と同じだ。

この両陛下のインドネシア訪問の事々をまとめたニュース、動画を改めて

視聴してみたが、両国がアジアのために協調しようとの意思が感じられた。このような友好関係構築においては、文化やスポーツの果たす役割は極めて大きい。日本のアニメ文化しかり、大相撲、プロ野球、ラグビー、アマチュア・スポーツにも外国人選手がごく普通にプレイをしている。

そう振り返ると、インドネシアでの新興国スポーツ大会（ガネフォ）に日本が参加した意義は大きい。それも、日本が大東亜戦争（太平洋戦争）に敗戦し、まだまだ反日の意識が強い1963年（昭和38）に参加したことは、友好関係構築の先駆的行動と言える。まさに「論語」でいうところの「身を殺して仁を成す」の精神だ。この翌年に東京でアジア初のオリンピックが開催されたが、スポーツが友好関係構築に大きく貢献することを日本国民は如実に実感したのだった。

ただ、残念なことに、日本国民はオリンピックについては知っている。しかし、新興国スポーツ大会・ガネフォは知らない。犠牲的精神をもって、日本とインドネシア、日本とアジア、日本と世界の友好関係構築に、日本の選手が参加した事を広く知って欲しい。そう願っている最中、当事国インドネシアのユスロン氏がガネフォを口にしたことは、とても心強いことだ。叶う事ならば、天皇皇后両陛下のお耳にも、犠牲的精神をもってガネフォに参加した日本人がいることを知って欲しい。